
国家との妥協

——新自由主義者と新左翼——

ケイト・シャオ・チョウ

〈ハワイ大学〉

本論は中国知識人が中国の移行期において直面しているディレンマを分析するものである。一方で、左翼、右翼両方の知識人は国家の奴隷か批判者である従来の中国知識人から自らを引き離し、距離を置こうと懸命に努めている。他方、両者とも特に左翼は国家の批判者として行動せざるをえないでいる。

中国における貧富の格差の増大に直面し、かつ毛沢東中国の負荷を負いながら、新左翼知識人は政府の内外で中国の認識形成に無類の役割を果たし続けている。

本論は現代中国における新知識形成の背景を調べるために地域・グローバル両面での分析用具を使用する。ここでは中国における新左翼、新右翼間の論争を創出し、形成する国境を越えたプロセスを分析的に使用する。この場合の明白な事例は2つある。第1は、西洋の古典的自由主義者が中国知識人の一世代にわたって教育に影響を与え、再編してきたことである。第2は、多くの中国人学生がアメリカの大学に留学したため、アメリカの教育制度が中国人新左翼に影響を与えてきたことである。

新左翼、新右翼形成へのグローバルな影響を議論した後で、本論は新左翼が引き起こす新しい脅威のみならず新自由主義者が直面している問題を議論する。他方、ほとんど例外なく新自由主義者は政府の応援団となっており、国家の経済計画を支援する習慣を形成している。この無批判的役割は人々の間での自由主義を弱体化させ、その結果新左翼に人民の間でのより多くの正当性を付与することになっている。

自由主義者はこれまで多くの偉大なことを成し遂げてきた。私的所有権や市場経済一般の擁護には卓越したものがあり、ハイエクの業績やその他古典的自由主義者の翻訳のようなヨーロッパ啓蒙主義概念の導入は一世代の中国知識人を育て、旧左翼への復帰を困難にしている。新自由主義者は毛沢東思想や社会主義に対する健全な不信があるにもかかわらず、自分たちが大衆の心情から遊離していることに気付いていない。ほとんどの新自由主義者は、環境、大きな所得格差、役人の腐敗、雇用保障などに関する人々の関心が新左翼の領域になったことを認めたがらない。新自由主義者の説明は、市場の論理を容赦なく推し進め、市場が一旦フル稼働すれば、副次的な負の効果は消滅すると期待しているのである。

しかしながら、新左翼は政府の政策に対する批判者となることで偉大な業績を上げている。胡鞍鋼と王紹光は中国における貧しい、恵まれない人々を擁護する代表的なスポーク

スマンとなっている。政府の貧困地域を犠牲にした富裕地域への傾斜に対する胡と王の批判は的を得たものであり、理性的である。新自由主義者の弾薬は、自由主義に反対する新左翼を葬る武器となりうるかどうか。

新左翼のほとんどが西洋、特にアメリカの新左翼から影響を受けている事実からすると、中国の新左翼は中国における自由主義の最大の脅威となる。なぜならば彼らは基本的に反自由市場経済であり、妊娠中絶合法化反対論者であるからである。市場経済は中国では新しい制度であるので、新左翼は究極的には市場経済の自由的基盤を根本的に弱体化させるかもしれないからである。

これは誇張ではない。

本稿は新自由主義と新左翼のための市民社会構築の議論をもって締めくくる。

(原文は英語。邦訳 山本一巳)